

A区分・C区分共通

No.1 (実演芸術・メディア芸術 共通)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演) 出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	メディア芸術	種目	映像
----	--------	----	----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	C区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	3企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	いっばんしゃだんほうじんこどもえいがきょうしつ		団体ウェブサイトURL
	一般社団法人こども映画教室		https://www.kodomoeiga.com
代表者職・氏名	代表理事 土肥悦子		
制作団体所在地	〒 150-0036	最寄り駅(バス停)	渋谷駅
	東京都渋谷区南平台町4-13 南平台ハイツ2F		
電話番号	050-3188-1549		
ふりがな 公演団体名	こどもえいがきょうしつ		団体ウェブサイトURL
	こども映画教室		https://www.kodomoeiga.com
代表者職・氏名	代表理事 土肥悦子		
公演団体所在地	〒 150-0036	最寄り駅(バス停)	渋谷駅
	東京都渋谷区南平台町4-13 南平台ハイツ2F		
制作団体 設立年月	2013年4月(2019年1月一般社団法人化)		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	土肥悦子(代表理事)・諏訪敦彦(専務理事)・藤岡朝子(理事)・原悟(理事)/林知一(理事)		団体社員:土肥悦子・諏訪敦彦 従業員(事務局):浅見孟 団体社員加入条件 社員総会での協議の上、加入
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の事業と兼任の事務 担当者を置く	本事業担当者名	浅見孟
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	土肥悦子
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	kaikei.kodomoeiga@gmail.com		

<p>制作団体沿革</p>	<p>2004年 金沢コミュニティシネマが主催(金沢21世紀美術館共同主催)として、前身となる「こども映画教室」を石川県金沢市が拠点として開催(以降毎年開催)</p> <p>2013年 任意団体「こども映画教室」として、東京都を拠点に活動開始。活動地域が全国に広がる。</p> <p>2015年 上映会およびシンポジウム「こどもが映画と出会うとき」を主催(以降毎年開催)</p> <p>2017年 フランスのシネマテーク・フランセーズが主催する教育プログラム「Le Cinéma, cent ans de jeunesse(映画、100歳の青春)」に、世界で15カ国目の参加国、そして日本初のコーディネーターとして参加。</p> <p>2019年 「一般社団法人こども映画教室」として法人化。 文化庁「文化芸術による子供育成総合事業―巡回公演事業―」受託</p> <p>2023年 東京国際映画祭主催「映画教育国際シンポジウム2023」企画運営</p>					
<p>学校等における公演実績</p>	<p>【別添シート】(1)参照</p>					
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業―巡回公演―」にて特別支援学級の児童と普通学級の児童混合でワークショップをおこない、その後も毎年の巡回公演において、そのように普通学級との混合で実施している。特に学校から「いつも登校できなかつたり、学級に入れない子がこの公演では一緒に楽しむことができた、と報告をいただいた。</p>					
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>				
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://www.youtube.com/watch?v=WX7_y60cZml https://www.kodomoeiga.com/2019</p>				
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="919 1561 992 1603">ID:</td> <td data-bbox="992 1561 1418 1603"></td> </tr> <tr> <td data-bbox="919 1603 992 1639">PW:</td> <td data-bbox="992 1603 1418 1639"></td> </tr> </table>	ID:		PW:	
ID:						
PW:						

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 こども映画教室】

対象	小学生(低学年)	○	/									
	小学生(中学年)	○										
	小学生(高学年)	○										
	中学生	○										
企画名	映画鑑賞+映画制作ワークショップ「生きていないものが動く！」 ～体育館が映画館に！ みんなで赤いボールを主人公にした映画を撮ろう！～											
プログラム全体の流れ	【プログラムの構成】											
	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td></td> <td>ワークショップ1回 → メインプログラム</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ワークショップ2回 → メインプログラム</td> </tr> <tr> <td>○</td> <td>ワークショップ → メインプログラム → ワークショップ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>メインプログラム → ワークショップ2回</td> </tr> <tr> <td></td> <td>メインプログラム → ワークショップ1回</td> </tr> </table>				ワークショップ1回 → メインプログラム		ワークショップ2回 → メインプログラム	○	ワークショップ → メインプログラム → ワークショップ		メインプログラム → ワークショップ2回	
	ワークショップ1回 → メインプログラム											
	ワークショップ2回 → メインプログラム											
○	ワークショップ → メインプログラム → ワークショップ											
	メインプログラム → ワークショップ2回											
	メインプログラム → ワークショップ1回											
プログラム全体の流れ	【全体の流れ】											
	【別添シート】(2)参照											
実施時間 WS1回目 70分 メインWS 80分 WS2回目 45~90分 合計 195~240 分												
作品(コンテンツ) 選択理由	『ローラーとバイオリン』は46分の短編作品ということで、45分～50分の単位で学校上映に最適であると考えます。バイオリンが好きな主人公の少年が、工事現場で働く青年と出会い、交流をするというお話は、大人にも子どもの心にも響く作品だ。映画史上でも類い稀な映像感覚を持つアンドレイ・タルコフスキー監督が作り出す映像の美しさは、スクリーンの大画面で映画を鑑賞する醍醐味を体験することができる作品である。本作品の監督であるタルコフスキーは世界中で愛され、日本でも監督作品のレトロスペクティブ(回顧上映)が多く開催されている。余白が多く、子どもたちが想像を膨らませることができる、とても豊かな映画である。											
著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名 『ローラーとバイオリン』(監督: アンドレイ・タルコフスキー)									
	該当事項がある場合	権利者名 株式会社 パンドラ	許諾確認状況 使用(上演)許諾取付済									

<p>指導体制</p>	<p>【別添シート】(3)参照</p>					
<p>従事予定者数 (1回あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む</p>	<p>上記指導者を含め、20名 (うちドライバー3名)</p>			<p>運搬</p>		<p>積載量: 1 t 車長: 4.265 m 台数: 3 台</p>
<p>児童・生徒の 参加可能人数</p>	<p>メインプログラム</p>		<p>30名～100名想定</p>			
	<p>ワークショップ</p>		<p>30名～100名想定</p>			
<p>本公演 実施可能日数目安</p> <p>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</p>	<p>6月</p>	<p>7月</p>	<p>8月</p>	<p>9月</p>	<p>10月</p>	
	<p>12日</p>	<p>10日</p>	<p>4日</p>	<p>10日</p>	<p>12日</p>	
	<p>11月</p>	<p>12月</p>	<p>1月</p>	<p>計</p>		
	<p>10日</p>	<p>12日</p>	<p>11日</p>			
<p>※平日の実施可能日数目安をご記載ください。</p>						
<p>実施にあたっての会場条件および学校側が必要な準備等</p> <p>※採択決定後、採択団体へ学校側に提示する条件の確認書の作成をお願いします。</p>	<p>【ワークショップ】</p>			<p>【メインプログラム】</p>		
	<p>会場: 体育館にこちらで用意した持ち込みスクリーンなど上映・音響機材を設置し、映像を鑑賞できる環境、かつ参加することもたちが座れるスペースが確保できること。</p> <p>また、日中でもカーテン、暗幕などで会場が暗くできること。</p> <p>準備物: 椅子(こどもが座席に座る場合、地べたでも可) 搬入車両およびスタッフ移動車両を停める駐車場</p>			<p>会場: 体育館、視聴覚室等、常設スクリーンまたはこちらで用意した持ち込みスクリーンなど上映・音響機材を設置し、映像を鑑賞できる環境、かつ参加することもたちが座れるスペース、撮影してもいいスペースが確保できること。</p> <p>また、日中でもカーテン、暗幕などで会場が暗くできること。</p> <p>準備物: 搬入車両およびスタッフ移動車両を停める駐車場</p> <p>参加児童が多い場合、安全のため撮影に付き添う人員が必要となります。教員、保護者など</p>		
<p>当日の所要時間 (タイムスケジュール) の目安</p>	<p>【ワークショップ】</p>			<p>【メインプログラム】</p>		
	<p>前日(準備:1.5～3時間) 16:00 学校到着&先生方と打ち合わせ 上映会場暗幕設置などの設営 上映リハーサル</p> <p>1日目 8:45 ワークショップ1回目(70分) ※全体の流れ①～③ 9:55 休憩(10分) → メインプログラムへ</p> <p>2日目 12:00 学校到着&機材設営&試写&打ち合わせ 13:00 ワークショップ2回目(50分) ※全体の流れ⑥～⑦ 13:50 終了 17:00 上映機材搬出</p>			<p>1日目(ワークショップ1回目の後)</p> <p>10:05 メインプログラム開始(70分) ※全体の流れ④⑤ 11:15 メインプログラム終了</p> <p>13:50 1日目終了</p>		
<p>企画のねらい</p>	<p>【別添シート】(4)参照</p>					



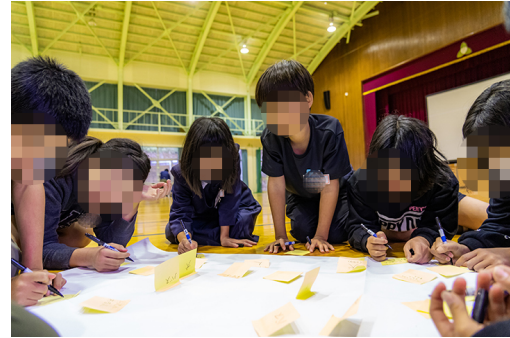
こちらで用意したスクリーンでの映画上映



体育館の窓にカーテン等が無い場合はご相談ください



プロジェクターを体育館後方に設置し、上映します



ワークシートを使用した鑑賞ワークショップ



iPadを使用した映画撮影の様子



iPadを使用した映画編集の様子

企画に係るビジュアル
イメージ
(舞台の規模や演出が
わかる写真)

※採択決定後、図
面等の提出をお願い
します。



こどもたちの作品を上映
映画監督と対話をしながら、舞台挨拶を行います

本事業への申請理由

【公演団体名

こども映画教室

】

**本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫**

①本事業に対する取り組み姿勢

こどもたちに対して、映画に関するワークショップを専門的に実施している団体として、学校教育の中で、“映画芸術の本質と出会う”体験してもらい、普段体験することのできない名作の鑑賞や映画撮影を学校教育の中で体験してもらおう。

この巡回公演によって、こどもたちの発想力やコミュニケーション能力が育成され、将来の映画人の育成や、映画鑑賞能力の向上を目的とし、取り組む。

具体的には、映像制作のプロであるだけではなく、すでに小学生、中学生たちとともに映画制作や映画鑑賞のワークショップをして、ファシリテーションについても知識や技術のあるスタッフとこどもたちが出会うこと自体がこどもたちにとって、深い体験となる(本気の大人に出会う)。

また、こども映画教室では、大人が指導するのではなく、こどもたちの自主性を尊重し、こどもたちがみずからお話を考え、撮影、出演し、編集もすることを大事にしている。映画、という敷居の低い芸術に出会うとき、こどもたちはワクワクととても楽しそうに自発的に動き考え、友だちとコミュニケーションを図っていく。そうして、映画ができるころには自分に自信が付き、コミュニケーション能力も高まっているのである。

こども映画教室は、これまで、映画祭(東京国際映画祭、高崎映画祭など)や、大学(早稲田大学、東京藝術大学など)、フィルムコミッション(信州上田フィルムコミッション)、各地のアート系映画館(シネマ尾道、シネモンド、シネマテークたかさき、福井メロ劇場、深谷シネマなど)など、映画や教育の関連団体との共催事業をしてきたが、そこでは映画に関心のある家庭のこどもたちが多く、あまり映画や芸術に関心のないこどもたちやそういった家庭のこどもたちは応募してこなかった。

しかし、自己肯定感を持ちにくい今の時代、どんなこどもにも映画制作や映画鑑賞の体験をしてほしいと思っていたため、本事業は、公教育での実施が可能であり、とても素晴らしい機会だと思い、申請した。

2019年度より同じプログラムが採択され、小学校で実施してみて、児童からのアンケート結果や、メイキング映像などからも、本プログラムをとても楽しんでくれたことがうかがえる。また、初年度からの経験で、よりスタッフを増やすべきであることや、ワークを細分化する必要性などを感じ、上映作品も含めてプログラムをアップデートした。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

実施校とは、密に連絡を取り合い、学校側の希望に合わせて、必要な準備工程、スケジュールを確認し合いながら事業準備を図る。

メインプログラムやワークショップの内容についても、実施校の施設状況や受け入れ体制に合わせ、実施校と相談し構成をする。なるべく臨機応変に学校側の希望に沿うようにしていくことが可能。

C区分で事業を実施するに当たっての工夫

【公演団体名

こども映画教室

】

① 離島・へき地等における公演実績

2019年度

須崎市立新荘小学校(高知)
 宿毛市立橋上小学校(高知)
 西条市立三芳小学校(愛媛)
 今治市立鴨部小学校(愛媛)
 美馬市立江原北小学校(徳島)
 砥部町立広田小学校(愛媛)

2023年度

玉野市立玉原小学校(岡山)
 新見市立本郷小学校(岡山)
 今治市立宮窪小学校(愛媛・離島)
 福山市立竹尋小学校(広島)
 潮来市立牛堀中学校(茨城)

2020年度

大島町立さくら小学校(東京・離島)
 ※創出事業
 桜井市立初瀬小学校(奈良)

2021年度

神津島村立神津中学校(東京・離島)
 いすみ市立浪花小学校(千葉)

2022年度

今治市立吉海小学校(愛媛・離島)
 雲南市立海潮中学校(島根)
 佐世保市立三川内中学校(長崎)
 五條市立北宇智小学校(奈良)
 別府市立南立石小学校(大分)
 鳥取市立青谷中学校(鳥取)

C区分で事業を
 実施するに当たっての
 工夫

② 離島やへき地等の地理的に特殊な事情がある地域で実施する上での工夫や、小規模な公演であっても公演及びワークショップの質を保つための工夫

A区分では大人数での鑑賞だが、C区分は参加する人数が少ないため、少人数に分けてワークショップをする工夫をした。各チームに映画の専門家によるファシリテーションが入ることで、より深く映画を知り、感じ、考えることができる。

A区分では大人数での鑑賞のため、明るさを重視した上映機材を必要とするために上映は外注したが、C区分では近隣に上映業者がない場合が多いこともあり、また上映規模がさほど大きくないことから、スタッフで対応することにした。とはいえ、前日入りの設営が必要となる。

C区分の特長は豊かな自然である。昨年度実施してみて、C区分の学校をとりまく自然環境は素晴らしく、特に映画制作においてロケーションは第2の主人公でもあるため、C区分ならではの撮影ができるように、各学校と密に連絡を取り、なるべく学校の外に出て撮影をしていく予定

【実施体制】

C区分では撮影を外でやることを前提としているため、安全面を考慮し、スタッフの数を決めている。またこどもの見守り役として、学校の先生や保護者へのご協力をお願いしている。

③ C区分申請における、小規模な公演の観点から実施する経費削減等についての工夫

一校につき「ワークショップ+メインプログラム+ワークショップ」を2日間連続で行い、

巡回による都内から現地までの移動回数をなるべく減らし実施します。

機材と人を一緒に運ぶことで移動をコンパクトにしている。
 そのためバン等をレンタルし、スタッフが運転手も兼ねている。

リンク先	No.1	【公演団体名	こども映画教室	】
学校等における 公演実績	2013年	横浜市教育委員会後援、東京藝術大学大学院映像研究科協力のもと「こども映画教室@ヨコハマ2014」実施(2014年、2015年、2016年も実施)		
	2014年	世田谷区奥沢小学校 奥沢体験楽校にて「映画のおもちゃをつくろう！」(課外活動)開催		
	2015年 で)開催	横浜市立新田小学校「こども映画教室@新田小学校」を(総合の時間・国語などの授業で)開催 「全国映連第44回 映画大学in今治」にて「映画館と街、子どもと映画」講義・登壇		
	2016年	6～10月 お茶の水女子大学付属小学校 選択授業にて 選択授業「映画」実施		
	2017年～	フランスの国際的映画教育プログラム”Le Cinéma, cent ans de jeunesse(映画100年の青春)”のオフィシャルパートナーとして、同プログラムを日本にて実施 東京国際映画祭主催・東京都共催「TIFFティーンズ映画教室」を企画運営		
	2018年～	”Le Cinéma, cent ans de jeunesse”のパリでの上映会”A nous le cinéma!(映画を我らに!)”に参加。映画教育に携わる15カ国以上の学校教育者と交流。 ※2020年、2021年は新型コロナウイルス感染症蔓延のため中止(2022年再開)		
	2019年	平成30年度国際交流基金海外派遣助成事業として 「こども映画教室(映画教室)南米・米国 公演・デモンストレーション」実施 チリのチリ大学において、「映画は学校だ! 映画教育に関する国際シンポジウム」にて講演(諏訪敦彦、土肥悦子) 文化庁「令和元年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演—実施 【実施校】C区分:須崎市立新荘小学校/宿毛市立橋上小学校/西条市立三芳小学校 今治市立鴨部小学校/美馬市立江原北小学校/砥部町立広田小学校 独立映画鍋主催「映画教育のススメ—教育における映画の可能性—」 に参加(中学生たち含む)		
	2020年	文化庁「令和2年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演—」実施 【実施校】C区分:桜井市初瀬小学校 文化庁「令和2年度子供のための文化芸術体験機会の創出事業」実施 【実施校】横浜市立荏子田小学校/府中市立府中第七小学校 大島町立さくら小学校/足立区立花保小学校 横浜市立下野谷小学校		
	2021年	文化庁「令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演—」実施 【実施校】C区分:神津島村立神津中学校/足立区立花保小学校 いすみ市立浪花小学校 文化庁「令和2年度第3次補正予算事業子供のための文化芸術鑑賞体験支援事業」実施 【実施校】横浜市立依知小学校/金沢市立夕日寺小学校/金沢市立湯涌小学校		
	2022年	文化庁「令和4年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演—」実施中 【実施予定校】C区分:今治市立吉海小学校/雲南市立海潮中学校/五条市立北宇智小学校 曾於市立岩北小学校/佐世保市立三川内中学校/別府市立南立石小学校 鳥取市立青谷中学校 A区分:太子町立山田小学校/新宮市立光洋中学校/阪南市立上荘小学校 大和高田市立陵西小学校/下北山村立下北山小学校 文化庁「令和3年度 補正予算事業 子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業」実施中 【実施予定校】茅野市立北山小学校/足立区立関原小学校		

リンク先	No.2	【公演団体名	こども映画教室	】
プログラム全体の流れ	<p>【全体の流れ】</p> <p>1日目</p> <p>【ワークショップ1回目】(70分)</p> <p>① 導入・講師紹介・今日すること(4分)</p> <p>② 「映画鑑賞」:鑑賞作品『ローラーとバイオリン』上映(46分/1960年/ロシア)</p> <p>③ 鑑賞ワークショップ</p> <p>「映画の中の登場人物の気持ちを想像してみよう」(20分)</p> <p>1) 5人のチームに分かれて映画に登場した人物、場所、出来事を思い出し、付箋に書き出す</p> <p>2) 登場人物がどんな気持ちだったのか、赤い丸型のカードに書き込み、映画の世界をあらわしたワークシートに貼る</p> <p>3) ワークシートに、さきほどの人物、場所、出来事の付箋を貼る</p> <p>4) 他のチームのワークシートを鑑賞して、人との違いを発見する</p> <p>【メインプログラム/本公演】(80分 ※休憩含む)</p> <p>④ 撮影ワークショップ(50分)</p> <p>『赤いボールの冒険』という映画を撮ってみよう</p> <p>1チーム5名に分かれ、1チームにつき1分の映画を撮影し、最後にそれを1本の映画にするプログラム</p> <p>1) 鑑賞ワークで書いた丸型のカードの中から、各チーム1枚を選ぶ</p> <p>2) そのカードに書かれた「気持ち」が『赤いボールの冒険』というこどもたちが作る映画のなかの主人公赤いボールの気持ちとなる。</p> <p>3) 『赤いボールの冒険』ルールブックの説明(撮影の基本的な約束事)</p> <p>4) 各チームに赤いボールとiPadが配られる</p> <p>5) 各チームに配布されたミッションカードを全員が引き、そこに書かれたミッションを実行(クローズアップ、移動撮影、パン、などの撮影方法が自然とできるようなミッションになっている)</p> <p>6) 「秘伝の書」を使って、いわゆる「シナリオ」を書く。</p> <p>7) チームごとに決めた「赤いボールの気持ち」が映るように、工夫して撮影</p> <p>⑤ 編集ワークショップ(30分)</p> <p>「みんなで撮った映像を1分に編集してみよう」</p> <p>1) iPadに入れた編集ソフトの操作方法を教える</p> <p>2) こどもたちが自分たちで編集をする</p> <p><<1日目の終了後からこども映画教室スタッフがこどもたちの作品を1本に編集。『赤いボールの冒険』ができてあがる>></p>			
	<p>2日目</p> <p>【ワークショップ】(45分)</p> <p>⑥ 発表会「みんなの作品をつなげて1本になった映画をみてみよう」</p> <p>1) 各チームの作品を再上映し、赤いボールの気持ちがどんな風に映っていたか、他のチームの人たちが感想を言う</p> <p>2) 作ったチームの人が撮影や編集で工夫したところや赤いボールの気持ちをどのように表現しようとしたのか伝える</p> <p>3) 特別講師(映画監督など)からの講評</p> <p>⑦ 記念撮影</p>			

リンク先	No.2
------	------

A区分・B区分・C区分共通分・C区分共通
【公演団体名 こども映画教室】、映画教室】
別添シート（3）

A区分・B区分・C区分共通
【公演団体名 こども映画教室】
別添シート（3）

令和6年度「文化芸術による子供の育成事業-巡回公演事業-」
出演者名簿（予定）

C区分

企画名：「生きていないものが動く！」

みんなで赤いボールを主人公にした映画を撮ろう！

出演者	17名									
役職	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名	氏名
1 映画監督（特別講師）	諏訪敦彦	萩生田宏治	五十嵐耕平	深田隆之	大川景子	瀬田なつき	早川千絵	山本英	太田達成	※1
2 エグゼクティブプロデューサー	土肥悦子									
3 映像制作チーフチームリーダー	奥定正掌									
4 映像制作チーフチームリーダー	飯岡幸子									
5 映像制作チーフチームリーダー	西原孝至									
6 映像制作チーフチームリーダー	糠塚まりや									
7 映像制作チーフチームリーダー	小林和貴									
8 映像制作チーフチームリーダー	高橋壮太									
9 映像制作チーフチームリーダー	藤田開									
10 映像制作チーフチームリーダー	大木真琴									
11 映像制作チーフチームリーダー	小田陽菜乃									
12 メイキング動画撮影監督	山本大輔									
13 メイキングスチール撮影監督	中村隆一									
14 チーフテクニカルマネージャー	酒井貴史									
15 テクニカルマネージャー	上野克									
16 テクニカルマネージャー	御子柴和郎									
17 プロデューサー	浅見孟									

※1 巡回スケジュールにより1名を派遣

リンク先	No.2	【公演団体名	こども映画教室	】
企画のねらい	<p>①主体的な観客を育てる 映画はつくっただけでは完成しない。人が観て初めて完成する。 だからこそ、時代を超えて人々に愛される映画が名画とされる。同じ映画を観ても、観たときの年齢や状況によって感じ方が違うことがあるのも、映画が各人の脳(心)のなかでその人の経験や記憶を呼び覚ましていくからだろう。 そのように“映画を観ている「私」”を感じ、映画に対して「私なりの考えを持つこと」や「自分なりにその映画をうけとり、自分たちの頭の中で映画を作り出す」ということは普段あまり意識されない。そのような鑑賞は観る側にも鑑賞能力を必要とするからだ。 そこで、国民の多角的な芸術鑑賞能力の向上のためには、このような、映画鑑賞における“主体的な観客”である姿勢をこどものころから大事にし、それを楽しく体験できる機会が必要である。</p> <p>②発想力の育成や芸術鑑賞能力の向上 また、鑑賞のみではなく、映画制作を体験することで、カメラの存在(アングルやサイズ、フィックス撮影、手持ち撮影、移動撮影など)や被写体の動き、演技などに気づくことができる。 こうしたこどもたちの発想力の育成や芸術鑑賞能力の向上を目指して本企画を実施する。</p> <p>③名作鑑賞による地域交流 ワークショップ1回目は、ロシアの短編映画『ローラーとバイオリン』を鑑賞する。学校の体育館を真っ暗にして、みんなでカウントダウンし、体育館を映画館に変える。映画館が街中からなくなっている今、地域の学校の体育館で名作を鑑賞することで、地域の大人も含めて多くの人に鑑賞体験をしてもらいたい。</p> <p>④映画を深く味わう 鑑賞後のワークショップでは、『ローラーとバイオリン』の内容を振り返り、少年にとって青年はどんな存在だったのか、一方で青年にとって少年はどんな存在だったかなどを考えるゲームをしながら作品を深く味わう。最後に、映画内での少年や青年の気持ちを想像してもらおう。同じシーンでも見る人によって主人公の気持ちは違って見える。なぜなら主人公の気持ちがわかったのは、「あなた」がそう考えた、感じたからであることを伝える(主体的な観客)。</p> <p>⑤映画ごっこではなく本当のクリエイションを目指す メインプログラムでは、赤いボールに主人公を変え、生きていないボールを生き生きと映画の中で見せるにはどうしたらいいのかをこどもたちに考えてもらい、実際にそれをiPadで撮影する。いくつかのワークを事前にやることで、こどもたちは自主的にチーム内でコミュニケーションを図り始める。ボールの気持ちをどうしたら表現できるのか、仲間と悩み工夫し、協力し実際に手を動かしながら映画を内側から体験する。最後に自分たちで編集をして各チーム1分以内の映画に仕上げる。</p> <p>⑥映画づくりには正解がないことを伝える 2日目に行なわれるワークショップ2回目では、メインプログラムで撮影したものを1本につなげて(こども映画教室のスタッフが前夜に編集する)、それを鑑賞する。他のチームの作品のボールの気持ちを想像して発言し、次に作った側もどんな気持ちを表現しようとしたか、どんな工夫をしたのかを発表する。これによりつくった側とみた側の違いがわかる。そこで答え合わせにならないように、どう受け取ってもいいのだということをしっかりと伝える。映画鑑賞も映画制作もどこにも正解がないこと、自由な解釈ができることを伝える。</p> <p>プログラム全体を通して伝えていきたいのが、リラックスして自由な発想をすることが大切であること。クリエイティブであるためには心を開放し、楽しさを感じながら映画を観たり作ったりしていくことを伝える。こどもたちは自分なりの映画の観方を自由に発表し、自分たちの手で作り上げた作品を観てもらうことで“主体的に”映画を楽しみ、自分の観たいように観てもいい、作りたいように作っていい、という体験を通して、自己肯定感が育まれることもこの企画のねらいである。</p>			